

### 第11回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

#### 〈実施概要〉

- 日程** 令和8年1月31日(土)～2月1日(日)
- 会場** 国連大学 ウ・タント国際会議場、レセプション・ホール
- 主催** 全国ユース環境活動発表大会実行委員会  
(環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所)
- 後援** 読売新聞社
- 協力** 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)／  
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)／ESD活動支援センター
- 協賛** キリンホールディングス株式会社／協栄産業株式会社／  
SGホールディングス株式会社／東芝プラントシステム株式会社



会場：国連大学  
(東京都渋谷区)

### 受賞校のみなさん、おめでとうございます！

全国大会に出場した高校(団体)は、いずれの活動内容も発表もすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめすべての出場高校に賞が贈られました。表彰された16高校の活動をご紹介します。



#### 環境大臣賞

##### 青森県立名久井農業高等学校 栽培環境班 FLORA The IIIrd.

##### 泡の魔法 ～環境共生を支える除草剤の泡散布システムの開発～

世界で最も使われる農業は「除草剤」。しかし、飛散するため生態系や人々の健康を脅かす問題が発生しています。私たちは除草剤を泡沫にすることで、飛散の抑制や使用量の削減、土壌微生物への影響も抑えることに成功しました。泡にするのはムクロジなど、日本が奈良時代から洗剤にしていた植物。現在は実用化を見据えてメーカーとの協議を進めるほか、技術を世界に公開しています。



#### 環境再生保全機構 理事長賞

##### 宮城県農業高等学校 桜プロジェクトチーム

##### 桜色の未来

気候変動の影響による猛暑で生じる「高温障害」で枯れてしまう地元・柴田町の桜を守るため、桜を高温・乾燥・塩害に強くする「桜色活力剤」を開発しました。柴田町では町民や町役場と協働し、桜色活力剤の散布活動を実施したほか、桜を様々な場所に植樹しています。さらに、JICA筑波では5カ国の代表者と植樹を行って国際発信を行い、「桜を守る地域モデル」を提案しました。



#### 国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

##### 東洋大学附属牛久高等学校 SDGs Lab

##### 牛久大豆IIで創る持続可能な未来—地域から世界、そして宇宙へ—

日本遺産である牛久シャトーとの交流がきっかけで、産業廃棄物として処理されているワインパミス(ブドウの種や皮)を堆肥化し、その堆肥で大豆を栽培するアイデアが生まれました。2030年には、タンパク質の需要が供給を上回る「タンパク質危機」が予測されています。環境負荷が低い方法でタンパク質含有量の高い大豆を栽培することで、持続可能な地球環境を創造していきたいです。



#### 読売新聞社賞

##### 熊本県立八代農業高等学校泉分校 グリーンライフ科・地域探求部☆☆

##### 100年後の故郷に豊かな森林環境を！ ～「高校生ハンター」が挑戦するシカ害対策・地域資源活用アクション～

泉町で目の当たりにしたのは、有害鳥獣による苗木の食害や下層植生の衰退によって生物多様性が低下するなど、森林からのSOSでした。林業従事者と森林を守るために、「森で学ぶ、森に学ぶ」の精神で「100年後の故郷に、豊かな森林環境を！」と合言葉を掲げ、挑戦をスタート！泉分校生が狩猟免許を取得し、「高校生ハンター」として野生鳥獣被害対策を実践しています。

